

# 地域連携・協働による花園地区における 花いっぱい活動について

津口 裕己乃・生田 俊裕

九州地方整備局 大分河川国道事務所 大分出張所 (〒870-0936 大分県大分市岩田町1-12-32) .

大分川では令和2年7月豪雨を受け、大規模な樹木伐採、堆積土砂撤去工事等を実施した。中流部の花園地区について、令和2年度～現在までの誰もが想像できなかった激変の2年間で地元とのつながり、ご縁のひろがりに関する物語をお届けする。

キーワード 大分川，維持管理，地域連携

## 1. はじめに

大分川は、その源を由布市湯布院町の由布岳に発し、賀来川、七瀬川と合流し、大分市において別府湾に注ぐ幹線流路延長55km、流域面積650km<sup>2</sup>の一級河川である。今回大分川左岸の中流部に位置する花園地区に焦点をあてた地域連携活動について紹介する。



図-1 大分川水系流域図

花園地区は住宅連坦部であり、堤防天端道路は自転車道路、川表には緊急河川敷道路があり、通勤通学や散歩等一般利用が多い地区である。また、広い高水敷を有しており、グラウンドが整備されている。



図-2 花園地区の概要

一方で環境配慮が必要なゾーンとなっており、樹木が大きく育ちすぎており、堤防から河川が見えない状態となっていた。また、グラウンドは利用者の手で管理されているが、その周辺も過去に環境整備事業として整備された広場等があったが、範囲も広く手が行き届かない状態であった。



写真-1 工事前の花園地区 (令和2年8月)

## 2. 花園ものがたり

### 第1章 工事編

令和2年4月、花園地区の樹木が大きく成長していることに出張所職員が疑問を感じ、自治会へ地元の方の樹木伐採に関する意識を確認したい旨を相談した。相談の結果、7月に開催予定の自治会(幹部会)で議論する時間をいただくこととなった。しかし、自治会(幹部会)を直前に控えた令和2年7月7日、豪雨による大出水があり花園地区近隣の地区でも内水被害等が発生した。令和2年7月19日自治会(幹部会)では「洪水時の妨げになるため樹木を伐採してほしい。」「樹木や草が鬱蒼としているため防犯上もよくない。」「グラウンド周辺は利用

者が維持管理しているが地区としては実施していない。」といったご意見が寄せられた。出水の影響もあり、自治会から要望書（樹木伐採、堆積土砂撤去）を提出することが決定。8月には自治会から大分河川国道事務所、大分市役所宛に要望書を提出、9月には工事開始というスピード感のある工事着手を迎えた。



写真-2 上:着手前 下:着手後11日目

工事着手後、一気に伐採が進み地元住民から不安の声が出張所へ届くようになった。ご意見の内容は「本当に全て伐採する必要があるのか。」「鳥等の生物に必要な環境がなくなるのではないか。」「河川空間に緑を残してほしい。」等である。これらのご意見に対して、職員及び自治会長、副会長にも同席いただき公民館でご意見をいただいた方々と対面し、治水上工事が必要であることをその都度個別で説明を行った。いただいたご意見を踏まえ、最終的には数本の樹木を残すこととなった。

地元住民から要望を受け残す樹木について以下の3点に着目し樹木を選定した。

- ① 地域に親しまれて、存置の要望がある樹木
- ② 整備後、木陰の利用が期待できる樹木
- ③ 整備後、大きく成長しない樹木

治水安全を考慮し流下阻害とならないよう存置樹木は縦断方向の配列とし十分に間隔を開けることに留意した。

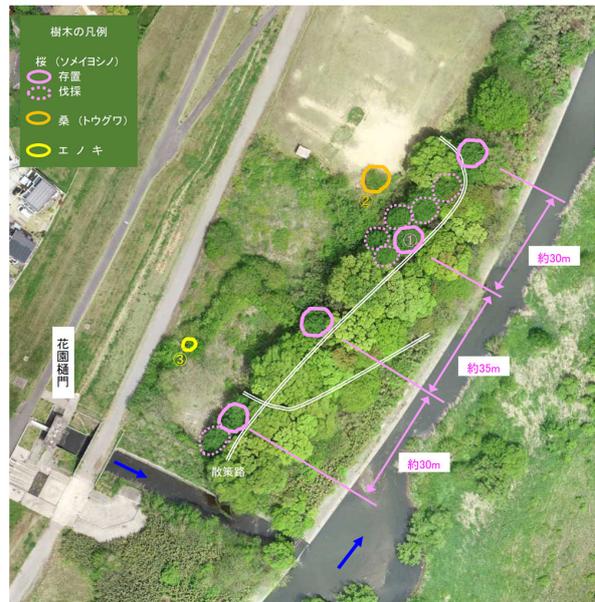


図-3 樹木選定イメージ

工事も終盤を迎えるころ花園自治会を含む8つの自治会で構成された「豊府校区自治会連合会」の会長から「事務所長へぜひ感謝状を贈らせてほしい。」とうれしい連絡をいただいた。伐採することに反対の方もいらっしゃいましたが、自治会長、副会長にもご協力いただき話し合いをすることで工事が止まることなく無事完了を迎えることができた。



写真-3 上:工事着手前 下:工事完了後（令和3年3月）



写真4 感謝状贈呈

## 第2章 つながり編

ここでは第1章の花園地区から範囲を絞り花園グラウンドについて紹介する。花園グラウンドは過去に遊歩道やベンチ、グラウンド等が整備されていた場所で樹木や草で見えない状態となっていたが、令和2年度の工事により再び姿を現した場所である。



図4 花園グラウンド

令和2年度に一度工事できれいになった花園グラウンドも暖かくなると瞬く間に草が伸びた。そんな中、1人の女性が遊歩道の周りの除草を行っている姿を確認した。



写真-5 花園グラウンド（遊歩道）（令和3年5月）

### (1) はじまるご縁

普段、通勤通学や散歩等一般利用はあるが、草が伸び遊歩道で作業をされている姿が一般利用者から見えず、安全利用上の不安を感じたため、ある程度見通しがきくように職員で少しずつ除草作業を開始した。

### (2) 広がるご縁

ある日職員が巡視していると女性の除草作業により草が減り、遊歩道周りに花壇のようなスペースができ、2枚の紙が置かれていた。中身を確認すると「リコリス・・・（中略）・・・このままで毎年咲きます。よろしくお祈りします。」「リコリスを植えてくださりありがとうございます。楽しんでいます。」と花園グラウンドを通じた地元住民の交流が生まれていた。



写真-6 書置きによる地元住民の交流

また、職員が除草作業をしていることに気づいた近隣工事の施工業者も手伝いに来てくださった。除草機の安全な使い方を教えていただいたり、一緒に除草、集草作業等を行い一気に人手が集まったことで、遊歩道周りだけでなく花園グラウンド全体の維持管理ができるようになった。

これらのご縁がつながり、令和4年2月に地元の方々で組織された「花園グラウンドをきれいにする会」が発足した。



写真-7 地元住民等による除草作業

### (3) 花園グラウンドをきれいにする会

令和4年3月3日に第1回花園グラウンドをきれいにする会の会合が開催された。参加者は花園グラウンドをきれいにする会の会員と花植えアドバイザー（地元のたね屋さん）、出張所職員である。議題は花植え、水やり等の管理方法、花の植え付け場所と準備、当面の整備方針である。手作りのパース、白図を使用し整備のイメージを共有しながら、ご意見を付箋に書き込み貼り付けていくブレインストーミング方式で行われた。



写真-8 第1回花園グラウンドをきれいにする会

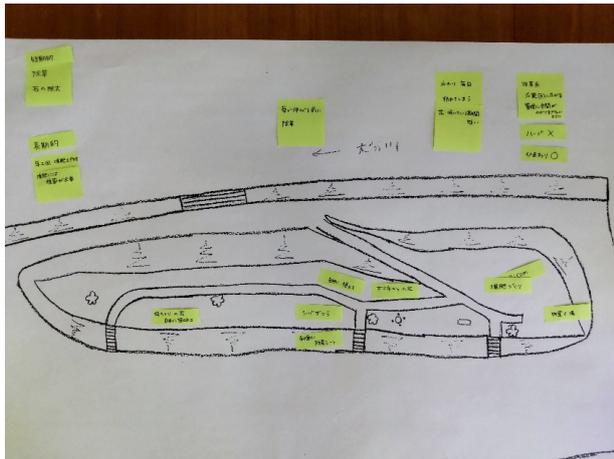


写真-9 手作りの図面によるブレインストーミング

### 第3章 活動編

花園グラウンドのきれいにする会が本格始動。週2回数時間程度集まり、除草・集草や花苗植え等を実施されている。ここでは実際に活動を行う上で発生した問題点や工夫点をご紹介します。

まず一番最初に問題となったのが花への水やりである。毎日水やりが必要であったが、花園グラウンドに水道は整備されていないため、バケツ等を使い河川から直接水を汲み水やりを試みた。水汲み場所は花壇から離れており運搬が重労働な上、河川管理者としても見通しが悪い場所のためお1人での作業は遠慮いただきたい場所だった。また活動を継続する上で毎日会員だけで水やりするのは手間がかかりすぎる。そこで、ジョウロの口を付けた大きなペットボトルに会員が水を汲み花壇近くに設置することで、運搬頻度を減らし、会員が安全管理をしたうえで水を汲むことができ、さらに一般利用者に水やりをしていただくよう工夫した。



写真-10 手作りジョウロ

また、刈草の集草・運搬は手作業ですと効率が悪いので、子ども用そりやブルーシートに包んで運搬することで各段に作業効率がアップした。



写真-11 ブルーシートを用いた刈草運搬の様子

令和4年6月現在、継続した維持管理活動が続けられており、花壇整備も順調に範囲を拡大している。春には菜の花や桜、今はひまわりも咲き夏を感じさせるまさに『花園』グラウンドとなった。



写真-12 花園グラウンドをきれいにする会活動状況

### 3. まとめ

今回、職員の転勤等をきっかけに新たな視点で河川環境を見た時の疑問点から自治会へ相談したことが、令和2年7月豪雨後、樹木伐採に迅速に着手するきっかけとなった。また、工事着手後にいただいた地元からのご意見についても自治会長、副会長に協力いただき工事が止まることなく完成を迎えた。さらに、地元からのご意見を参考に全伐採ではなく、数本の樹木を残すきっかけとなった。工事完了後ボランティアで除草作業をしていただいていた1人の女性がきっかけとなり、職員、地元住民、施工業者とのご縁が次々と広がり、花園グラウンドを中心に新たな交流の場が生まれ「花園グラウンドをきれいにする会」が発足した。ちょっとしたきっかけを積み重ねたことでご縁がつながり河川の活発な活用につながった。今後さらに「花園ものがたり」が発展・展開していけるよう活動をサポートしていきたい。